

特別頒布のお知らせ

く平成三十年 第一次摺り立てく

『群書類従』は文政二年（一八一九）に、全巻が完結しました。そこで温故学会は版行二百年記念として所蔵の文化財版木によって『徒然草』及び『伊勢物語』『竹取翁物語』『土佐日記』を限定部数により特別頒布いたします。

製本にあたっては、江戸時代からの技法を継承し、一枚一枚手摺りで仕上げ、料紙、角布、綴じ糸もすべて特注品を用い、和本として最高級品として仕上げていきます。

木版刷立 豪華和装帙入り

徒 然 草（上・下）

兼好法師 著 屋代弘賢 筆

東京都指定有形文化財

定価 三万八千円（税・送料込）

（五組限定）

本書は一度、続群書類従に収められ、のちに「閑居の友」という珍本に差しかえられた。奥書には「文化十二年二月二日書写終功源弘賢」とある。弘賢は塙保己一の高弟で学識に富み、当代随一の書家としての名声があり、その筆跡はみごとである。

本版木は、江戸後期に『元暦校本万葉集』と同時に版行されたが、その後永らく版木は行方不明となっていた。しかし、明治末期に偶然に見えられ、大正初期から当会で再出版された。

版木の状態は極めて良く摺り立ても美品である。

今回は、昭和七年に刊行された際の「徒然草 抜粹附録詳註」を添え、豪華クロス地仕立（帙入り二冊組）として装丁した。

群書類従 物語部 卷三百七

伊 勢 物 語

定価 八〇〇〇円（税・送料込）

※十冊限定

平安初期に成立した歌物語。作者不詳。内容は、男女の恋愛を中心に描かれ、主人公は在原業平とも言われている。

諸本の系統は定家本をはじめ五つに分類されるが、本書は朱雀院塗籠本をとっている。

群書類従 物語部 卷三百九

竹取翁物語

定価 七五〇〇円（税・送料込）

※十冊限定

平安初期の成立で日本最古の物語。成立年・作者は不明だが、源順、紀貫之、菅原道真説などがある。

五人の貴公子がかぐや姫に求愛するおなじみの書。識語には、織部（松平）乗尹蔵本ほかを校合とある。

群書類従 日記部 卷三百二十七

土佐日記

定価 八〇〇〇円（税・送料込）

※十冊限定

平安時代に成立した最古の日記文学。紀貫之が土佐国から京に帰る時に起きた出来事を綴ったもの。成立は、承平五年頃といわれている。貫之自筆本は消息不明となり、その後藤原定家らによって筆写された。識語には扶桑集葉並び流布印本を校合とある。

特別頒布のお知らせ

～平成三十一年 第二次摺り立て～

本年は、『群書類従』完結から二百年の記念の年にあたります。今回は、『元暦校本万葉集』、『十七箇条憲法』、『七十一番職人歌合』（三冊組）を摺り立て限定数での頒布をいたします。

今回も、当会所蔵の国指定重要文化財版木、東京都指定有形文化財版木を使用して摺り立てます。『元暦校本万葉集』は塙保己一がながらく探し求めていたもので、発見の報に接し自ら上京して調査を行いました。

諸般の事情から考え、恐らくはこれが最後の摺り立てとなる可能性もあります。ぜひこの機会に座右の書として長く手元に置いて愛読してもらいたいものです。

木版摺立・豪華和装帙入り

元暦校本万葉集

巻一・二・七 三冊組 十組限定

東京都指定有形文化財

定価 四万二千円（税・送料込）

寛政年間（一七九〇年代）、神戸の俵屋久左衛門のもとに「万葉集」があることを知った塙保己一は、屋代弘賢と横田茂語を派遣して全十四冊を虫喰いの跡まで精密に写し採らせ、これを和学講談所に置いた。

しかし、事情により開版できたのは、巻一・二・七の三冊のみになってしまった。その後、版木は所在不明となり摺り立てが出来なかったが、明治四十五年、倉庫から偶然発見され塙忠雄（塙家四代）らの努力により摺り立てが再開された。

版木は、本文を黒墨で一度摺り、その横に校合文を朱色で摺るという二色摺りとなっている。三冊を帙に入れることで美術品としても価値が高い。

群書類従 雑部 卷四百七十四

十七箇条憲法

定価 七〇〇〇円（税・送料込）

※十冊限定

推古天皇十二年（六〇四）、聖徳太子によって制定された法文。内容は官僚や貴族に対する道徳的な規範が示されており、神道・儒教・仏教の思想が込められている。しかし、保己一は第二条に疑問をもっていた。それは「二曰篤敬三寶三寶者 佛法僧也・・・」という一文であった。

群書類従 雑部 卷五百三（上・中・下）

七十一番職人譔合

定価 各七〇〇〇円（税・送料込）

※三冊同時購入の場合 二万円 十組限定

室町時代（一五〇〇年頃）に成立した中世後期の職人を題材とし、百四十二職種 of 職人を載せている。作者は公卿歌人、絵は土佐光信とされる。秘本とされた住吉内記本を模写させ、歌・詞に関する部分は新井白石蔵本を借用し屋代弘賢が清書した。美術・歴史書としても貴重な書である。

特別頒布のお知らせ

く平成三十二年 第三次摺り立て（最終回）く

特別頒布の最終回は、「浦島子伝」（うらしまこのでん）、「今物語」と「薫集類抄」の三点を頒布いたします。『群書類従』には日本の古代から中世にかけての歴史・文化・文学などを網羅しています。さらに珍本秘本といった文献史料が数多く残されています。

『群書類従』版本は、江戸時代は和学講談所で、大正時代からは温故学会で摺り立てが行われていますが、その摺り立て冊数はゆうに四十万冊に及びました。まさに江戸時代からのベストセラーと言えます。活版本、CDR版もありますが、版本でぜひお読みください。

群書類従 文筆部 卷百三十五

浦島子伝

定価 七五〇〇円（税・送料込）

※十冊限定

平安時代（一二九四）の作で漢文体。浦島太郎は亀を助けたことで竜宮城へ行く。三年が過ぎ、戻ってみると風景が一変する。貰った玉手箱を開けてしまうと、白髪の老人になったという話。識語には「丹州筒河庄福田村寶蓮寺如来道場」と記されている。

群書類従 雑部 卷四百八十三

今物語

定価 七〇〇〇円（税・送料込）

※十冊限定

一七八六（保己一四十一歳）に、群書類従の見本版として「今物語」を刊行した。以後三十年に渡り版行を継続する記念すべき最初の書。

鎌倉時代中期（一二三九）藤原信実が編したといわれている。和歌・連歌恋愛など、上流貴族の男女の話題が中心として描かれている。

群書類従 遊戯部 卷三百五十八

薫集類抄

定価 八五〇〇円（税・送料込）

※十冊限定

平安末期の歌人である藤原範兼の編纂による現存最古の薫物（たきもの）指南書。香道は、奈良時代には儀式として行われ、平安時代になると貴族が家伝の薫物を楽しむようになった。この書は配合について詳しく記されており、御家流によって現在も行われている。識語には寂蓮法師自筆本とある。